

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2873003061		
法人名	社会福祉法人 田能老人福祉会		
事業所名	グループホーム 「春日の家」		
所在地	兵庫県尼崎市田能5丁目10-25 (電話) 06-6498-0228		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年 3月 5日	評価確定日	平成21年 3月25日

【情報提供票より】(平成21年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10人, 非常勤 7人, 常勤換算 13.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	260 円	昼食 460 円
	夕食	560 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	2	要介護 2	5
要介護 3	7	要介護 4	3
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 84.1 歳	最低 67 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	合志病院、親里医院、みどりクリニック、臼井歯科医院他
---------	----------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

尼崎市の北東部に走る藻川の川沿いの住宅街の中にあり、平成元年開設の法人施設の一角に、3階建て3ユニットのグループホームとして平成16年に開設された。近くに農業公園、田能遺跡、春日神社があり、近年、住宅が増えてきているが、自然も残る環境にある。1ユニット6人の入居者が、穏やかな表情で暮しており、さりげない細やかなケアで、職員がその人らしい生活を支えている。毎日のケアを大切に入居者の言葉や行動を細かく観察し、記録に残すことでアセスメントの把握に努力している。管理者と職員の信頼関係のもと前向きな姿勢が印象的なホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	平成17年に受審しており、その改善課題として取り組んだ内容として、地域との交流に向けて、自治会や老人会に加入するとともに、各種行事への参加を継続して実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	常勤職員全員で、自己評価項目に対し、それぞれが振り返り、それぞれの言葉で記載され、振り返りができている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族が8～9名、自治会長、理事長、ホーム管理者・主任などが参加している。会議では、ホームでの行事や事故報告、人事異動の報告等について意見交換し、家族や地域からの要望意見も聴く機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	かかりつけ医受診の通院介助等で、家族が来訪時に日頃の様子を報告し意見を伺っている。運営推進会議には全家族に参加を呼びかけ、運営推進会議の開始前に家族会を持っていただいて率直な意見が聴けている。さらに、介護計画を確認していただく時に意見を書ける文章をつけたり、年に1回家族アンケートを行い、細かい意見まで運営に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	自治会、老人会にも加入しており、町内会やお祭り、敬老会での食事会、地域ボランティアによる趣味の会にも積極的に参加し、地域との交流を図っている。日々の散歩で近所の人々とのあいさつも楽しみにしている。また、中学生のトライやるウィークの受け入れも行っている。今後は、さらに地域の人を招いた交流やホームからの働きかけを期待する。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、共同生活」「さりげないお膳立てと助け舟」「いつも一期一会「今」を大切に」を理念としており、常に目に留まるよう、各フロア毎に3か所掲示されている。		事業所が大切にすることを職員の言葉で表現されており、胸にストーンと落ちる工夫がなされている。更にもう1点、地域の関係性強化を謳った内容を盛り込んでほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をケアの基本と位置づけ、職員の採用時には必ず理念を伝えている。また、カンファレンスの中で確認し合い、日々の関わりの際には理念に立ち返ることを常として取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回の外部評価で取り組む課題であった自治会、老人会等に入会した。運営推進会議に自治会長がメンバーとして参加していることから自治会行事の広報をいただき、その都度、積極的に参加している。		地域とのつきあいは、この間積極的に取り組んで定着が図られている。トライやるウィークの受け入れ定着とともに、地域の方にも気軽にホームを活用していただき、地域のサロンとして発展させたいとする事業所の姿勢を高く評価し、ぜひ実現させていただくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経営主体の法人内では自己評価を行ってきたが、外部評価は3年ぶりの受審となる。今回各フロア毎に職員が自己評価に前向きに取り組み、その意義や目的についてしっかり理解することができた。外部評価についてもサービス向上を活かしていく姿勢が確認できた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヵ月毎の開催日には家族会も設定し、利用者家族全員に参加を呼びかけている。8～9名の参加があり、家族会で意見をまとめ、運営推進会議に出していただいている。他に自治会長の参加もあり、行事のお誘い等が行われ、地域包括支援センターのメンバーからは、種々の情報提供を受けている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議への参加要請を行っているが、日曜日は出席しにくい状態である。運営推進会議の議事録は毎回届けている。		市町の行政機関は、地域密着型サービスの指定権限を有しており、事業の推進において大変重要な存在である。それだけに、事業所の実情等をよく知っていただき、課題の解決に取り組んでいくための協働関係が望まれる。引き続き関係づくりに努めていただくよう希望する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月に1回、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理の収支報告書、ホームの便り等とともに報告している。運営推進会議議事録も送付している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族アンケートを年に1回実施して、出された意見に対しては誠意を持って対応している。家族からもっと気軽に意見を出してもらおう工夫として運営推進会議の前に家族のみの時間を設けて意見を出してもらっている。意見箱も設置している		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの関係づくりは、大切なことと重視している。しかし、退職等、職員の異動は避けられない中、利用者のダメージを防ぐ工夫として各ユニットの職員を固定化せず、ユニット間の交代体制を採ってきたところ、行政指導もあり、当面は各ユニットで固定化し、問題点を把握する取り組みを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修を受ける機会は、事業所負担で確保されている。外部研修の参加者は、報告書を提出し、それを基に伝達研修を行い、積極的な意識向上が図られている。		認知症介護は、個別性と柔軟性等が求められるだけに、日々の体験を学びにつなげる方法として計画的な研修が必須である。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないように研修の機会を確保する方法として、内部研修についても計画的に位置づけていく工夫が求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市内の同業者連絡会は組織化されているが加盟していない。しかし、職員は研修等には参加しており、知り合いになった同業者と日々の仕事の悩みや取り組みなどの交流をしている。		管理者は同業者との交流や連携を行うことについて、事業所のサービス水準の質の確保のために必要なことと再認識し、連絡会へ加盟し積極的な参加を期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境が変わることで本人のダメージを最小限にするため、本人と家族にホームを見学していただくことから始め、入居後は、しばらくの間、家族に頻繁に会いに来ていただいている。職員が自宅に訪問する場合は、自宅の生活空間を把握し、ご本人を受け止めることに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	時には頼ったり、子育てで悩んでいることを相談して慰められたり、的確なアドバイスをいただいたりして、人生の先輩として利用者へ教えていただく場面が多くある。また自分の部屋の掃除など、利用者の得意分野で力を発揮していただくように声かけをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のさりげない会話の中から思いや考え、希望について関心を払い、丁寧に把握することに努めている。小さな動きも見逃さないように必ず記録するようにし、その記録を職員で話し合い、共有するようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの利用者に対して、その人らしく暮らし続けるための介護計画にこだわり、家族からの意見や日々の生活の中での気づきを反映したアセスメントを活かし、職員のカンファレンスによって総合的な視点で作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しは、「ケアプラン見直し票」にきめ細かく意見を集約し、次のケアプランに活かしている。状態が変化した場合は、その都度カンファレンスを行い、見直しを行って家族にも報告している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人と家族の暮らしを守るための支援を継続していくために、前向きに、しかも柔軟な姿勢を堅持している。今後はさらに模索しながら取り組んでいくよう努力している。</p>		<p>事業所として認知症対応の居住環境や職員の認知症介護の機能を活かして、地域住民や利用者が求めるサービスの対応についても具体的な取り組みを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医の通院・受診介助は、緊急の場合を除いて、基本的には家族が同伴することになっており、利用契約時に同意を得ている。受診の際、事業所から日常生活記録等の情報提供を行い、受診後は、家族から通院結果報告を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時の契約等の説明において、日常生活動作の低下時は、併設の特別養護老人ホームへの入所等の対応を家族や職員とで十分相談の上、考えていく旨を説明している。</p> <p>また、医療機関への入院になるケースについても、家族と相談納得の上、決定するようにしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉づかいについては、十分気をつけているが、ややもするとニックネームで呼んだりする場面がある。カンファレンスでは常に注意事項として掲げ、職員の意識向上を図るとともに、プライバシーを損なう対応についても徹底を図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、体調に配慮しながら、その日の本人の気持ちに添って、自己決定を尊重した支援を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けまで、職員が声をかけながら利用者の意思や気持ちを大切に行っている。素麺(そうめん)が好きな方は、毎回味噌汁に入れて楽しんでいる。職員は別のテーブルで、利用者はテレビを見ながらの食事風景が気になった。		食事は準備から後片づけまでを利用者とともに行き、そして同じテーブルを囲んで楽しく食事をするという、この一連の過程が大切な支援課題となる。誤嚥などの危険を回避する上からも、職員と利用者が同じテーブルで食事を共にする取り組みを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも好きな時間帯に、毎日入浴していただいている。拒否の強い方には気分を変えていただくため、お風呂の入口に「ゆ」の暖簾をかけたたり、入浴剤を入れて温泉気分浸っていただく等の工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、一人ひとりが中心になれるような役割を把握し支援している。玉ねぎの皮をむきながら、戦争の話に花が咲いたり、ぬか床をかき混ぜるなど利用者の経験や知恵を発揮していただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の近辺には農業公園や、藻川の土手があり、散歩コースに恵まれている。日課となっている散歩は、職員が、マンツウマン(1対1の個別対応)で支援している。散歩が無理な利用者は屋上で日光浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解できるが、3階ベランダから外に出てしまった利用者が九死に一生を得る状態があったため、100%自信がない時は、内側の自動ロックがかかっている。		利用者の安全を守るために「危ないから」という理由で、鍵をかけることの弊害を理解しながらも背中合わせの状態にあることは理解できるが、なぜ外に出たくなるのか、その理由や行き先などを知ることが大切である。鍵をかけずに安全に過ごせる支援について重ねて努力することを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回、併設の特別養護老人ホームとともに消防署の訓練を行い、夜間を設定した避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。藻川の堤防が近いので、水害時は、法人全体が地域の避難場所として設定されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養バランスは栄養士のアドバイスを入れながら献立に配慮している。食事の量、水分量は毎日5段階でチェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	1ユニット6名の入居空間は、カウンターごしのキッチンから茶碗を洗う音や、ご飯の炊ける匂いなど、わが家と同じ感覚に安心感があり、テーブルの一輪差しには菜の花や桃の花が季節感を添えている。玄関のプランターにはチュリップが芽を出し、春の訪れを予感させている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者が愛用していた馴染みの物が置かれ、部屋の換気にも配慮されている。孫たちの笑顔一杯の写真、家族全員の写真が何よりの安心感を与えている。		

 は、重点項目。